

## アンケート結果を受けて改善したいところ 【教育科学系】

アンケート調査の結果から、授業の難易度や量などはほぼ的確のようだが、「問15 この授業のための週当たりの学習時間」が「なし」という学生が一定数いる(中間レポート課題を課しているので、「なし」はおかしいはずなのだが)ので、この改善をしていきたいと考えている。

授業の出欠についてコメントをもらっている。

「授業の出席を学生証でやっており、遅刻した場合、欠席扱いにされることがあり、それは違うと思った。電車の遅延などの人は不利だと思う」

というコメントだが、電車をはじめとする公共交通機関の遅延に関しては、遅延証明書の提出をもって遅刻扱いとはしていない。教授会において学生証の必携を連絡されていたことから、学生証がない場合は事務から学生証明書を取ってくることで対応している。人数の多い授業なので、遅刻の対応など個々の事情に対応することはしないということは初回の授業で申し伝えてあるため、いささか理解できないコメントである。

①授業規模が大人数であるがゆえに、アンケート結果を不安に思っていたが、思った以上に、受講生に授業方法を受け入れていただいていることが分かり、ありがたいことだと思った。

②年度によって学生の問題意識や集中力などが変わってくる面があるので、もう少し、意見交流する問いの内容を彼ら／彼女らの問題意識を刺激するようなものにするるとともに、意見交流の時間も長すぎず、短すぎずを心がけるようにしたい。この授業の場合、交流時間は10分、交流の回数は一回の授業につき1回が限度のようである。

③昨年度は、他の種類のワークショップも試みたが、受講人数が多すぎて、時間がかかりすぎてしまった。このため、今年度は意見交流のみを行った。しかし、毎回意見交流ばかりしていると、学生は飽きる部分もあるようだった。一回くらいは、他のワークショップを試してみてもよいかも知れない。

④上記の②と③をうまく行うためには、学生の状態や声を的確に踏まえた判断が必要である。学生が教員の目を気にして思っていないこと、考えてもいないことをリアクションペーパーに書くようになってしまうと、判断に間違いが生じるからである。こうした判断を的確に行うためにも、毎回学生に課しているリアクションペーパーをさらに書きやすいものにする必要があると思っている。努力はしたつもりであったが、今年度も成績評価に関係すると思ってしまって「いいこと」ばかり書く学生、レポート用紙をいかに埋めるかに力が入ってしまった学生がいた。次年度以降は、少なくとも用紙をスリム化する必要がある。

この授業のための週当たりの学習時間が少ないのが気になるが、教採の勉強に時間を割いているのかもしれない。教員とのコミュニケーションが「どちらともいえない」が一番多いため、学生とのコミュニケーションを図る何らかの方法を考えた方が良いのかもしれない。クラスの人数が多いのが気がかりである。

「授業の難易度」は「ちょうどいい」を多数の者が選び、次に多いのが「難しい」である。「一回当たりで扱われる授業内容の量」は「ちょうどいい」を多数が選び、次に多いのが「多い」である。そのような結果でありながら、週当たりの学習時間は「1～2時間」程度から「なし」までが一番多い。もっと多くの時間を予習復習に費やすように促す必要があるであろう。

否定的な回答は、どの項目の0%であった。肯定的な回答がほとんどであるが、問5「この授業の学習目標が到達できた」は、「③どちらとも言えない」が36.4%と最も多い。この授業は、生活科新設の経緯、学習指導要領の変遷、改訂された学習指導要領の目標や内容について、単元構成をさせることで理解をはかることであった。まず、アンケート時に学生が学習目標を分かっていたか、不確実である。アンケートの前に確認する必要があった。次に、単元構成は、それほど簡単にできる訳ではなく、朱書きをしての学生への返却が、アンケート後になってしまったため、学生個人の主観での回答になってしまった結果であると考えられる。

新しい考え方や知識という点では有用ととらえられ、学習目標も一定に達成したと認識されているようである。教職志望でない学生の多いクラスでは、「この授業の内容をさらに学びたい」が低い結果となっている。教員の説明が「ややそう思う」「どちらともいえない」両方に同じ程度分布しており、やや低い得点となっているため、今後の課題である。

必修授業で専門の授業でもないため、学生にも受身的な態度が見受けられるが、今回「おもしろかった」とのコメントをもらい今後の励みになった。批判的に吟味するだけでなく、よい評価も大切であると感じた。

授業を分かりやすいと感じていた学生や、授業の難易度が「ちょうどいい」と答えている学生が多かったのは良かったと思うが、(そのためもあってか)授業のための学習時間(授業外の学習時間)が少ないのが気になっている。

講義で指示した課題に対してはまじめに取り組んでいた様子がかがえる。また、講義の内容についても十分な理解度に達していたと判断される。反面、講義に関連することがらを自ら調べたり考えたりする姿勢は十分とはいえないので、改善案を考えていきたい。

「新しい知識が身についた」「説明がわかりやすい」「授業の難易度が「ちょうどよい」」などが過半数であり、概ねよかったと思う。ただし、「授業のための学習時間」が1時間以下の学生が多かったので、今後、レポート課題を再検討する必要がある。

長年やってるので、少しマンネリ気味ですね。もう少し、できる所から変えていきたいです。

これまで担当した授業では、「学生同士の学びの機会」や「教員とのコミュニケーション」に関して課題があったが、今回のアンケートの結果を見ると、これらの課題が改善されているように感じる。「C-Learning」のシステムの導入が効果を上げていると考えられるため、今後より効果的な使用方法を検討したい。

予復習の時間がやや不足していると考えます。授業内容の性質上、より取り組みやすい形で「復習」を中心に学習時間をもってもらえるよう改善して参ります。

時には、学生が事前・事後研究できる課題を提示し、学生の自発的な学習意欲を喚起することも授業の中で行う必要があると感じる。

まず、授業の環境面では、声の聞き取りやすさ、教材の理解しやすさについては概ね満足が得られた。授業の進度についても70%以上の学生が「ちょうどいい」と回答したことから概ね満足の得られたものと判断する。授業内容の理解については、問1・2で「強くそう思う」と「ややそう思う」という回答が80%を超えたが、一方で問3・5の自分なりの思考の展開や自らの表現で伝えられるかに対しては「強くそう思う」と「ややそう思う」のパーセンテージが低下した。今後は授業内容の理解に加え、自ら思考を展開し、理解を深め、自らの表現で伝えられるよう促すことが重要であるとわかる。その方法として問4にもあるが、学生どうして課題に取り組む機会を増やし、学生間で刺激し合える環境づくりを試みたい。これにより学習意欲の向上や授業以外での学習時間の増加にもつながることを期待している。  
このアンケート結果をもとに今後もより良い授業作りに励みたいと考える。

- ・学生とのコミュニケーションを深める場や方法を工夫する。
- ・提示した課題について自分の考えを書く際に、資料等を調べる場を工夫する。

教員とのコミュニケーションについては、大学1年生になったばかりの受講生にとっては、高校生と担任の距離の近さと比較すると、コミュニケーションのしづらさがあったかもしれないと思いました。リアクションペーパーにコメントを書いて返却することも半分以上の回でしており、コミュニケーションは十分あるかと思っていましたが、意見を受けて、コメント以外にも授業前後などの時間を使うなど、検討できればと思いました。

春の草木図鑑づくりやミニトマトやアサガオの栽培、小動物の飼育方法・飼育観察記録、身近な廃材を使ったおもちゃ作り、伝承遊びや雨の日の遊び調べなど課題も多くあり、その成果の交流方法を工夫していきたい。

学生が主体的に学べるような授業づくりを目指していきたい

各自で授業内容について調べる時間を持ったり、授業外での学習時間を担保できるよう、課題提出の有無を確認する必要性があったと感じた。

1回の授業で扱う内容が多過ぎるとの意見が思っていた以上に多かったことから、今後、この点を改善していきたいと思いました。

各項目でおおむね肯定的な回答を得ることができたが、「主体的な学習」「対話的な学習」に関連する質問項目(問2、問3、問4)で、「③どちらともいえない」「④あまりそうは思わない」という回答が比較的多くなった。授業の性格上やりづらい面はあるが、授業時間外の課題を提示したり、学生どうしの議論の場を設けるなど、できるだけ主体的に対話的な学習の充実に向けた工夫をしていきたい。

概ね評価が高かったが、「教員とのコミュニケーション」のみ「どちらともいえない」が多かった。知識伝達型の授業なので、討論などを行うことは難しいが、コメントを記述させるなどの工夫も必要だと思う。

【教育の社会的研究】

同じ授業であってもクラスによって評価のバラツキが小さくない。「問1 この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた」の肯定的な回答は、90.0%、86.8%、74.4%である。「問9 教員の説明がわかりやすい」は84.0%、77.1%、68.0%である。最も低いクラスは体育科所属の学生が大半を占めており、もう少し体育と絡めた内容も扱うべきだったかもしれないと反省している。

【E選 世界の大学とキャリア形成】

「問8 教員の話し方は聞き取りやすい」で「どちらともいえない」が14.3%、23.1%いた。講義や発表の時間が押して、授業の後半は早口になることが多かったので、時間配分を再考したい。

問15について、なしと答えている学生が半数以上であった。一応指導要領解説書の事前読みや授業の事前準備について、シラバスや、授業日にも声をかけていたが、しなくても授業に支障がなかったと思っている学生が多かったということです。事前の学習の必要性が実感できるような工夫が必要だったと思います。

学生とのコミュニケーションの方法を質疑やコメント用紙の他にも検討したい

4年生の自由記述の中に、「3つの柱のことを15回延々と繰り返している印象で、そこから何を学べば良いのかわからなかった。もっと実際の事例を見て、こういう内容をやったなあとか思い出したかった」と記載した学生がいた。

講義においては、3つの実践事例を授業分析の形で取り上げてはいるが、4年生の中にはこのようにより事例を取り上げる希望を持っていることも考えられる。学生の思い出の回想に留まるような授業ではなく、授業者としての見通しを持てる方向での改善を試みたい。

おおむね十分な評価値であり、授業の内容や方法など、大きな方向性については、現行を基本に、次年度も進めて行こうと考える。今後は、以下に示す通り授業改善を図り、学生の職業指導・キャリア教育に対する学びが深められるようにする。

- 1 学生がわかりやすく理論と実践の結びつきを理解できるよう教材教具の工夫改善を図る。
- 2 アクティブラーニングに手法を取り入れながら、今日的な諸問題と照らし合わせて、教員になった時の実践に役立つような授業構成をはかる。
- 3 自らの研究や最先端の学術情報活用しながら、キャリア教育に関する興味と理解が高められるよう授業展開を工夫する。

事前学習を促すような工夫が必要と考えた。

また、授業内でのディスカッションや協働学習の要望も多かったため、今後できるだけ多く取り入れていきたい。

- ・毎回の授業で目標を明示すること
- ・質疑やリアクションシートの記述などのコミュニケーションの回数を増やすこと
- ・学生の探究のきっかけとなるような質の高い内容をさらに研究すること

- ・学生の意見では資料が多い、プレゼンの文字数が多いというものがあった。
- ・対象回の授業ではレポート課題のこともあり通常より多くの資料を配布したことがあるが、要点を絞った資料の作成やキーワードの明示、ポイントを絞った授業展開について心掛けたい。
- ・また、大教室で132人という大所帯の授業であるため講義型の授業にならざるを得ないことや、プレゼンも後ろに行けば行くほど見えにくくなることもある。プレゼンの文字数や配置の工夫をすることはもとより、プレゼンだけに頼らず、学生と教員、学生同士が話し合う場面を更に増やすなど、自ら考え納得が得られる授業づくりの工夫に努めたい。

担当初年度で学生たちの習熟度など不明なところがあり手探りでのスタートであったが、学生とのインタラクティブやグループワークなど、より充実させられたらと考える。また、技法の理解が不十分なところなど、今年度の様子をもとに、さらなる理解を促せるような講義内容にしていきたい。

授業で話す声が小さいという指摘があるので、改善したい。